

応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)
2004年(平成16年)5月28日(金)発行

No.25

(発行所) 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 第7麹町ビル25号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: see@blue.ocn.ne.jp HP: http://www.ecesj.com/

(発行者) 応用生態工学会(編集責任者:幹事長 角野康郎,事務局長 島崎由美)

Contents

1	はじめに	1
2	ごあいさつ	1
3	委員会報告(将来構想委員会・交流委員会・研究開発委員会 合同委員会)	1
4	日韓河川生態セミナーについてのご案内	2
5	海外学会派遣研究者募集	4
6	イベント案内	4
7	新刊紹介	4
8	事務局から	4

1 はじめに

2004年度が始まりました。応用生態工学会は、1998年に5カ年計画を策定し、1999年度から2003年度まで計画に則って各種事業を行ってまいりました。現在、各委員会で5カ年の総括を行っています。次号のニュースレターでは会員の皆様に総括報告と今後の計画についてお知らせする予定です。

多くの会員の方から会費を振り込んでいただいておりますが、未だの方がありませんら、会費の納入をお願いいたします。

2 ごあいさつ

事務局長 島崎由美

前号のニュースレターで西前事務局長からご紹介いただいておりますが、4月から事務局長に着任いたしました。

早いものであつという間に2ヶ月が過ぎようとしています。一般の会社で言う、総務、経理、企

画を一人でこなさなくてはならない仕事だと実感しているところです。まだ、前任の熊野さんと西さんが敷いたレールを脱線しないよう徐行運転しています。

不慣れなことが多いのは当然ですが、会員の皆様に極力ご迷惑をお掛けしないよう頑張ります。また、各地でのセミナーなどのイベントには会員の皆様のご協力も欠かせません。今後とも事務局をよろしく願いいたします。

3 委員会報告(交流委員会・研究開発委員会・将来構想委員会 合同委員会)

2004年4月1日に将来構想委員会・交流委員会・研究開発委員会の合同委員会が開催されました。5カ年の総括、今年度の計画、近い将来の学会の方向性について審議していただきました。主な内容等を以下に示します。

日時：2004年4月1日(木)14:00-17:00

場所：弘済会館4階会議室

出席者：<交流委員会>辻本、谷田、清野、森、浅枝、内田、小川、<研究開発委員会>熊野、古川、<将来構想委員会>谷田(兼)、古川(兼)、山本、大矢、橘川、山岸、<幹事長>角野、<事務局>島崎・西(前任)

<5カ年計画の総括について>

・2001年度にまとめた中間総括、昨年10月の総会で報告した5カ年総括(案)に2003年度の最後までの実績を加えて、理事会に報告する。

・委員会のメンバーのみの評価ではなく、学会員からの評価も必要。そのためにはニュースレターに要約を掲載し、今後のことも含めて意見を求める必要がある。

・各委員会の報告に関しては概ね済んでいるが、会誌の今後の方向性および交流委員会がパートナーシップ委員会を生み出したことをどう評価するかが抜けている。

・交流委員会の議論では、市民活動といってもさまざまなので、逆に学会に対してどのような希望があるかを調べようという段階。

・交流委員会の活動とは別に、市民活動への対応や学会の役割を別に議論できる場が設置されたことは、交流委員会のひとつの成果と言える。

・学会が生まれたことによって、国土交通省の事務所や外郭団体の方が「応用生態工学」的な考え方をするようになった。そのことを評価する視点として、河川環境管理財団の助成金の利用について調べたらどうか。

・逆に、応用生態工学会の研究発表会の場でそのような制度があることを知り、申し込み、活動を始めた例があることも聞いている。

<分野の拡大について>

・土木学会海岸工学委員会・日本海洋学会・日本水産学会・水産工学研究会で沿岸環境関連学会連絡協議会ができ、過去3年間の活動である程度軌道に乗ってきた。そろそろ河川の方に声をかけようかという意見が出ている。

・応用生態工学会は河川や湖沼が取り組みやすかったもので、そういうところに散在してきた研究会を連続したものにするとということやってきた。しかし、偏っていたことを反省点として、河川以外の分野への取り組みもすぐにでも実行してゆきたい課題である。

・海岸に砂を撒くことが各地で行われ始めている。河川やダムで砂を直接海岸に置くことに問題はないのか、よくわかっていない。早急にガイドラインが必要と考えている。

・土砂管理のみでなく、水の管理も課題。農業の分野も取り込んでいかないと、河川だけでは解決できない。

<学会誌に関して>

・会誌が最もお金のかかる要素となっている。印刷された会誌を発行しつづける必要があるか疑問。最近できた日本地震工学会は印刷された学会誌を持たない。

・共同で発行を検討している英文誌はネット販売を前提とするべき。電子媒体だとカラーをふんだんに使える。

・現在の学会誌は近い将来に年3回の発行を、さらに将来的には年4回(季刊)をめざす。そのためには投稿数を増やさなくてはならない。

・各論文の質は高いが、現場の技術者にはわかりにくい。また、投稿から発行までの期間も長いので、最近各地で行われている河口の観測の結果などがすぐには手に入らない。

・プロシーディング付のシンポジウムを企画するほうが現実的ではないか。

・事例研究の投稿規程を緩和する方向で編集委員会で検討している。

<その他>

これらのほかに、学会の組織体制について、事務局体制の今後のあり方と財政の課題や、この課題の解決策の一つとして学会とは別組織だが相互に関連するNPO法人を設立することとその活動内容、および幹事会を有効に機能させるための案についての意見交換が行われました。

4 第2回日韓河川生態セミナーについてのご案内

1) ご案内

昨年夏、徳島において徳島大学岡部教授、鎌田助教授ならびに京都大学防災研究所竹門助教授のご尽力により、韓国建設技術院(Korean

Institute of Construction Technology) Woo博士との連携の下で、河川生態に関する日韓セミナーが開催され盛會に終わるとともに、今後に展開していくことが確認されました。応用生態工学会でもこれを後援し、今後も交流委員会で積極的に支援していくことになりました。

このたび、第2回セミナーとして韓国側から下記のような日程での提案があり、日本側との協議のもとに今回のセミナーのテーマを次のように設定しています。

テーマ："Ecohydraulics and Ecological Process - Principle, Practice, and Evaluation"

日程(予定)：

7月4日(日) ソウル着

7月5日(月) Kyeonghi University (ソウルから約30km 南)でセミナー

7月6日(火) 漢江に沿った野外エクスカージョン

7月7日(水) ソウルから帰国

参加希望者は後段の日本側世話人あてご連絡ください。

2) 発表募集

発表者6名の韓国内旅費は、韓国側から支給されるという申し出があります。発表希望者は、2日目のセミナーで発表(プレゼンテーション)するテーマとともに、同じく日本側世話人あてご連絡ください。

応募期限：平成16年6月15日(火)

日本側世話人：

辻本哲郎(名古屋大学大学院)

E-mail ttsujimoto@genv.nagoya-u.ac.jp

竹門康弘(京都大学防災研究所)

E-mail takemon@wracs.dpri.kyoto-u.ac.jp

鎌田磨人(徳島大学)

E-mail kamada@ce.tokushima-u.ac.jp

5 海外学会派遣研究者募集

応用生態工学会・交流委員会(辻本哲郎委員長)では、2004年度の海外学会等派遣者の募集を開始しますので、下記募集要領に基づき事務局まで申込下さい。(2004年度の助成総額は30万円)
【海外学会等への派遣者募集要領】

1) 目的：

自然環境と開発の問題については、我が国だけに限らず多くの国々で関心が持たれ、様々な研究と実践的な試みが行われて来ている。応用生態工学を発展させるためには、こうした海外での活動に積極的に係わり参加することによって、情報を得、人的交流を図ることが求められている。

応用生態工学会では、ここに会員から希望者を募り、「派遣研究員」を審査選考して、海外で開催される関連学会・シンポジウム・国際会議等に派遣し、その内容を全会員に報告するものである。

2) 派遣関連学会等：

2004年度に海外で開催される応用生態工学に関連する学会・シンポジウム・会議等で、以下役員等から得た情報をお知らせいたします。これらは、いずれも応用生態工学に関連するものです。応募するにあたって、これら以外の会議等であっても差し支えありませんが、その場合は、開催団体および開催内容がどのように応用生態工学と関連するか言及して下さい。

なお、これら以外の関連学会等については、新しい情報が入り次第ホームページに掲載します。

派遣候補1

名称：第29回国際陸水学会(SIL2004)

開催期間：2004年8月8～14日

開催地：フィンランド・ラハティ

内容：湖沼、河川の保全と管理、水界生態系における生物多様性、水文地形の景観、陸水生態系に

おける侵入種の問題など

詳細情報：

<http://www.palmenia.helsinki.fi/congress/SIL2004/>

派遣候補 2

名称：第 5 回 エコハイドロリクスに関する国際シンポジウム

5th International Symposium on ECOHYDRAULICS

開催期間：2004 年 9 月 12～17 日

開催地：スペイン・マドリード

内容：水界生態系に関する分析、人為影響の評価とミティゲーション、水界システムの再生など

詳細情報：

<http://www.tilesa.es/ecohydraulics/english/index.html>

3) 選考基準：

(1) 資格

応用生態工学会の正・学生会員であること(募集開始時点で会員でなくても、会員となることを条件として応募可能とする。)

応用生態工学に興味を持つ学生あるいは 35 歳未満の大学・研究機関研究者、技術者

(2) 適性を判断する項目

派遣対象となる会議のテーマと本人のバックグラウンド(研究・調査経験)の合致性

派遣対象となる会議で何を学ぼうとしているのか、その焦点を明確に述べているか否か

国際会議に出席して内容を把握できる能力の推定(海外経験等)

応用生態工学への関心の度合い

参考として応用生態工学会での活動・参加状況

(3) 派遣研究員の選考

2004 年度は、学会としての助成総額を 30 万円とし、適性者数・派遣先等を考慮して、派遣研究員数・個別助成費用を決める。

資格・適性基準を満たすものについては、費

用の助成をしなくても「派遣研究員」として認めることが出来るものとする。ただし、当人は辞退できる。

選考にあたっては交流委員会で書類審査により候補者を選び、理事会において決定する。

4) 応募条件：

(1)学会等への参加手続き、旅行手続き(国際航空便、宿泊予約等)は全て派遣研究員が行う。

(2)帰国後応用生態工学会に学会の内容等を報告する。報告はニュースレター或いは会誌に掲載する。

(3)旅行中の事故などについては、当学会は責を負わない。

5) 申込み申請書：

派遣希望者は、会員番号、氏名、所属、連絡先(〒・住所・TEL・FAX・E-mail)、年齢、男女、専門分野、希望派遣学会等(開催会議等の名称、主催者名、開催月日、開催国・地名、会議等の目的・内容、現地見学会の有無と内容、参加申し込み期限、参加費、研究発表をするか否か、案内パンフ等がありましたらそのコピーをお送り下さい)、および派遣希望理由(選考基準参照のこと)を、計 A4 二枚以内(書式自由)にまとめ、郵送・FAX・E-mail 等にて事務局に申し込み下さい。

6) 申込期限：2004 年 6 月 30 日(水)事務局必着。

7) 派遣決定時期：2004 年 7 月中旬(予定)

6 イベント案内

第 1 回東北ワークショップ in 仙台の報告書ができました。

昨年 11 月に仙台で開催されたワークショップ「地域の自然環境を保全し、蘇らせるために」の報告書ができました。

1 部 1,500 円で販売します(送料の負担もお願い

します。1冊の場合240円)。

お申し込みは、送付先(〒、住所、会社名、氏名、請求書・見積書・納品書が必要な場合はその部数とあて先)を明記して「応用生態工学・仙台」まで、FAXまたはE-mailで。

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-7-25

(株)復建技術コンサルタント交通環境部内

担当:橋本(はしもと)または新関(にいぜき)

TEL 022-217-2018 / FAX 022-217-2036

E-mail: masasih@sendai.fgc.co.jp

振込先:郵便局のみ

口座名称:応用生態工学会仙台

口座番号 02280-8-92496

第1回中国ワークショップ in 広島

平成16年7月22日・23日に広島において「水系環境の保全と創造 - 自然再生に向けて - 」と題した現地見学会とワークショップを開催します。詳細はちらしをご覧ください。また、各講師の講演概要は学会ホームページに掲載してあります。

円山川ワークショップ

コウノトリの野生復帰に向けての取り組みが行われている兵庫県豊岡市での現地見学会・フォーラムおよび兵庫県三田市での川の自然再生を考えるセミナーを企画中です。

1)セミナー:「川の自然再生を考える」

日時 平成16年8月7日 10:30-16:00

場所 兵庫県立人と自然の博物館

ホロンピアホール

(<http://www.nat-museum.sanda.hyogo.jp/>)

参加費 1000円

2)現地見学会:「豊岡・円山川の自然再生」

日時 平成16年8月8日 8:30-12:00

場所 JR城崎駅または豊岡駅出発、コウノトリ

の郷公園・円山川など

参加費 3000円を予定

3)フォーラム:「円山川の自然再生(仮題)」

日時 平成16年8月8日 13:00-16:30

場所 豊岡市民プラザ

(JR豊岡駅前 アイティ7階)

(<http://www.city.toyooka.hyogo.jp/plaza/index.htm>)

参加費 無料

このほかに、当学会では8月7日のセミナー終了後、豊岡方面へ移動するバスを用意する予定です。

詳細と申し込み先は、決定次第ホームページなどでお知らせします。

第3回北陸ワークショップ in 新潟

北陸でのワークショップの第3回目として新潟での開催を企画中です。日程は11月になる予定です。次回ニュースレターおよびホームページでお知らせします。

7 新刊紹介

桜井善雄・国土交通省霞ヶ浦河川事務所編著『霞ヶ浦の水生植物 1972～1993. 変遷の記録』(信山社サイテック、2004年3月、307頁、18,000円)

著者の桜井善雄氏は、1970年代初頭から霞ヶ浦の水生植物の変遷をつぶさに調査してこられた。その全記録をまとめたのが本書である。1970年代、霞ヶ浦は水草の宝庫であったことが多数の写真と植生図から知ることができる。1980年代にはいると湖岸改修や富栄養化の進行で、消滅する水草が増え、一方で新たに記録される種も登場した。このような変化は、時期を同じくして全国各地の湖沼でも起こっていたことだが、具体的な資料のある湖沼はごく限られる。特に植生図まで含めた変遷の記録は他には見あたらない。この調査は、建

設省霞ヶ浦工事事務所が、将来の保全対策の拠り所となる実態調査として開始したもので、当時の事務所長は現在の当学会会長である廣瀬利雄氏であったという。1970年代初頭にこのような調査事業が始まったことは、まさに先見の明によるものであったという著者の指摘に同感である。

最近、霞ヶ浦では水生植物群落の急激な衰退や、アサザを中心とした復元の取り組みがよく知られるところとなっているが、再生の目標を明らかにする上でも、本書に記録されているような過去からの詳細な変遷の記録は貴重な意義をもつだろう。植生図をはじめ生の記録が多くに頁を占めるが、このような資料が生かされるときが、まさに今なのである。

後半には、「関連資料」として湖岸植生帯の保全やヨシの復元技術の検討の報文など、関連文献が収載されている。このような出版企画の実現に尽力された国土交通省の関係機関や出版社にも敬意を表する。

(角野康郎)

8 事務局から

<学会・事務局の動き、今後の予定等>

- 3.30 会誌「応用生態工学」6巻2号発行
- 4.1 2004年度開始
将来構想委員会・交流委員会・研究開発委員会 合同委員会(弘済会館)
- 4.10~11.21 シリーズ講習会「水域生態系保全 - 現地説明会」
- 6月 河川整備基金申請結果
- 6月 2004年度の国際交流海外学会等への派遣者募集締め切り
- 6月 編集委員会
- 6.12 第25回理事会
- 7.5~6 第2回日韓河川生態セミナー

- 7月 2004年度の国際交流海外学会等への派遣者決定
- 7月 ニュースレターNo.26発行予定(第8回大会案内等)
- 7月 研究発表(口頭・ポスター)募集開始
- 7.22~23 中国ワークショップ(広島)
- 7月 会誌「応用生態工学」7巻1号発行予定
- 8.7~8 円山川ワークショップ(兵庫県三田市・豊岡市)
- 8月 研究発表募集締め切り
- 9月 第8回大会案内・参加者募集
- 10.1~3 第8回大会(総会、研究発表会、公開シンポジウム)
- 11月 北陸ワークショップ(企画中)
- 11月 ニュースレター27号発行予定(イベント参加報告等)
- 12月 会誌「応用生態工学」7巻2号発行予定(特集:標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価)

<編集後記>

5月22日・23日に矢作川であったシリーズ講習会(講師:名古屋大学 辻本教授)に参加しました。詳しくは実行委員から報告していただきますが、何とか雨に降られずに終了しました。

それまでに降り続いた雨のため、水位が上がっており、せっかく用意されたデモンストレーションを見せていただくことはできませんでしたが、矢作川の現状と課題を、現地を目の前にしてご説明いただき大変勉強になりました。

シリーズ講習会への参加報告やその他のご意見・ご報告など会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
(事務局 島崎由美)

[2004年5月25日現在会員数]

正(学生)会員	1,164名
賛助会員	49法人(75口)